

63

ち はま ご がん けい かん
千ノ浜の護岸景観

日本遺産構成文化財

アクセス 金風呂港
から徒歩15分
笠岡市北木島



みず べ は いし
水辺に映える石のパズル！



ち はま かい
千ノ浜の海
岸は、採石の廃
土石により埋め
立てられていま
す。採石で発生
した端材を利用
して護岸が築か
れています。矢
穴の残る大小

いし たく く あ さま げん さん ち こう けい けい かん
の石を巧みに組み合わせる様は、原産地ならではの光景です。この景観は、澄み渡った海水
めん ども みず みやこ おも つう しょう きた ぎ な づ
面と共に水の都ベニスを思わせることから通称、「北木のベニス」と名付けられています。

64

きた ぎ しま ちよう ば こ
北木島の丁場湖

日本遺産構成文化財

アクセス 金風呂港
から徒歩15分
笠岡市北木島



いし き れき し もの がた あお みずうみ
石切りの歴史を物語る青き湖！



4つの丁場跡に雨水
(水深約20～40m)がた
まり、大きな湖となっていま
す。採石の歴史を物語る
産業遺産でありながら、ま
るで山水画のようなその
景観から通称、「北木の
桂林」とも呼ばれていま
す。

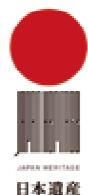
65

きた ぎ いし ちょう ば
北木石の丁場

日本遺産構成文化財

アクセス 金風呂港
から徒歩10分

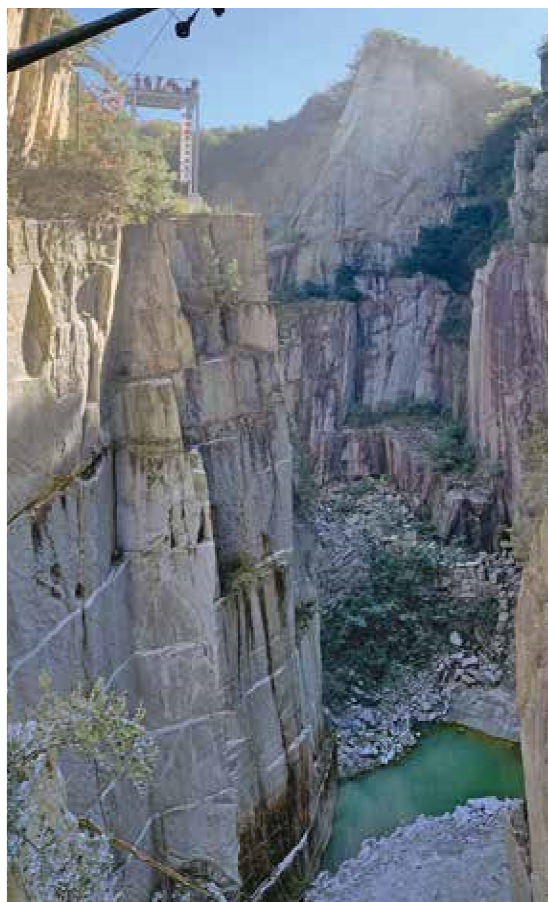
笠岡市北木島



日本遺産



まん てん だん がい ぜっ ぺき
スリル満点の断崖絶壁！



北木石とは、北木島で採れる花崗岩で、輝くような白さが特徴の石材です。北木石は、日本銀行本店本館、東京駅「丸の内駅舎」などの重要文化財に使われています。この丁場(石切場)は、明治25(1892)年に開かれ、現在も採石が続いています。良質の石を求めて地下深くへと掘り進んだ結果、天に向かってそそり立つ岩壁が誕生しました。また、丁場には展望台があり、この壮大な景色を堪能できます。

開場時間／平 日 12:00～13:00

土日祝 11:00～13:00

上記以外の時間に見学する場合は申込が必要

お 休 み／年末年始

お問合せ／0120-68-2120
(鶴田石材株式会社)

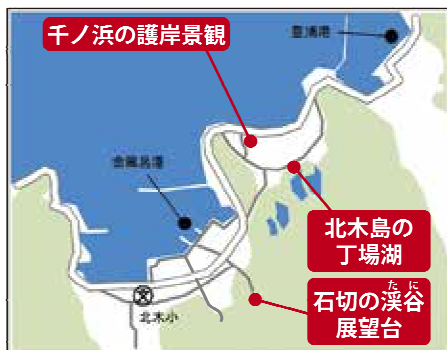
入場料／中学生以上 1,000円

小学生 500円

※小学生未満は無料



石切りの溪谷展望台



千ノ浜の護岸景観

北木島の
丁場湖

石切の溪谷
展望台



いし く あ さぎょう か
石工のテンションも上がった作業歌！



北木島石切唄は、北木島で石工が山から石を切り出したり、割ったりする時に歌われた作業歌です。採石場での仕事は大変長く重労働でしたが、この唄を歌い合うことで、作業効率を高め、辛さや厳しさを紛らわせました。石切唄の内容は、北木石のこと、島の自慢、石工の生活や思いなどでした。昭和30年代からは作業が機械化され、石切唄は聞かれなくなりましたが、現在では、保存会の人たちが歌い継いでいます。また、港の近くには、石切唄の歌詞と石切風景を刻んだ「北木石切唄」の碑が立っています。絵は、北木西小学校（今の北木小学校）の児童の共同作品です。



北木石切唄の碑

北木石切唄

- 一、北木日本一 大石出どこ
きいておくれよ 石屋節
- 一、浪速名物 大阪城も
北木から運んだ 石でもつ
- 一、一度は来なされ 北木の島へ
石と魚の 宝島
- 一、山は宝石 沖や鯛の群
黄金吹き寄す 北木島
- 一、嫁に行くなら 石屋の嫁に
右も左も 金ばかり



日本遺産



きた ぎ しま かっ き いま つた

えい が かん

北木島の活気を今に伝えるレトロな映画館！



旧映画館「光劇場」は、北木島が石材業の発展により活気にあふれていた頃の映画館です。昭和20年代終わりから昭和42(1967)年頃まで営業しており、石工たちに娯楽を提供していました。昭和30年代、島内には4軒の映画館がありましたが、ここは唯一残る映画館跡です。今でも、当時の設備や映写機がそのまま残っています。現在では、島の有志たちがコンサートを開いたり、北木島の石文化に関する映画上映や石切唄の実演などが行われています。

旧映画館「光劇場」は、いつも開館しているわけではありません。

●見学科 / 500 円



きた ぎ しま ほこ いし く よう ぐ
北木島の誇り、その名も「北木石」！

北木石記念室の展示

北木島の石工用具



きた ぎ しま ほこ いし く よう ぐ
北木島は良質な花崗岩「北木石」の産地として知られています。その採掘の歴史は江戸時代に始まり、明治時代に本格化しました。笠岡市立北木中学校にある北木石記念室では、採石・加工用具をはじめ、北木石に関する資料を展示しています。「北木島の石工用具」は、伝統的な道具と機械化された近代的な道具の両方が集められており、北木石の歴史を物語るとても貴重な資料です。

北木中学校は現在休校中です。
お問合せは、笠岡市生涯学習課までお願いします。

●笠岡市生涯学習課 ☎0865-69-2155

開庁時間／月～金曜日 8:30～17:15

(祝日・休日・年末年始を除く)





いま つづ ひな なが でんとう
 今も続く雛流しの伝統！



きた ぎ しま なが びな きた ぎ しま おお うら おこな でんとう
 北木島の流し雛は、北木島大浦で行われる伝統行事です。小麦わら、または厚紙を利用して小舟（うつろ舟）を作り、帆を立てます。その中に毎月1体作ってためた12体の紙雛（閏年は13体）を乗せて、旧暦三月三日の満潮時に浜辺から海へと流し、この雛に家族の安全や子どもの健やかな成長を願います。雛が和歌山県にある淡嶋神社へたどり着くと願いが叶うと信じられています。

ひな なが ふん か ひろ おこな
 雛流しの文化は、かつては広く行われていましたが、現在では珍しい行事となっています。



うつろ船

ま なべ け てつ や ほん け れき し つた たてものぐん
真鍋家(鉄屋本家)の歴史を伝える建物群！

真鍋島本浦地区にある真鍋島郵便局の裏手に、島の旧家である真鍋家の住宅があります。明治時代から大正時代にかけて建てられた主屋、旧郵便局舎、乾蔵、倉庫及び納屋、表門の計5棟の建物によって構成されています。保存状態もよく、島の住宅建築の歴史を知るうえで貴重な建物です。

主屋は、明治3(1870)年の建築です。木造平屋建てで、屋根は棧瓦ぶきです。東側に土間を設け、西側に書院造りの座敷(部屋)があります。

旧郵便局舎は、大正6(1917)年の建築で、主屋の北側にあります。木造2階建て、切妻造、棧瓦ぶきで、島内では数少ない洋風意匠で近代化の足跡を伝えています。西側の道路に面して小さな庇が残っていますが、これが郵便局の玄関だったころのなごりです。

ひら が げん ない
平賀源内もビックリ！ホルトノキ！

真鍋家住宅の庭に大きなホルトノキが立っています。幹の周囲2.4m、高さ約15m、推定樹齢約300年の巨樹です。家伝によると、江戸時代の宝暦年間(1751～1763)に平賀源内が讃岐に苗木を持ち込んだものが、やがて真鍋家に伝えられたと言われていますが、もともと島に自生していたとする説もあります。

ホルトノキは、熱帯～亜熱帯に分布する常緑高木で、暖かい海岸沿いに自生しています。県内では珍しい樹木です。



真鍋島のホルトノキ



真鍋家住宅主屋



真鍋家住宅旧郵便局舎



真鍋家住宅乾蔵(左)と路地



真鍋家住宅・ホルトノキ



さんちゅう

けん ない さい こ きゅう せき どう

山中にひっそりとたたずむ県内最古級の石塔！



沢津丸の宝塔は、通称「マルドウサマ」と呼ばれる石塔で、真鍋島西端の山中にぽつんと立っています。高さは約170cmあり、香川県でとれる凝灰岩を使って、塔身の内側をくりぬいて空洞にしています。相輪の上部が欠けているほかは、本来の形をよくとどめています。平安時代末頃から鎌倉時代初め頃に作られたもので、県内でも最古級の石塔です。地元では源平の戦いの戦死者をとむらった供養塔とも、経塚ともいわれています。



もとは岬の頂上にあつたものを、開墾のため現在地に移動したといわれています。現地に通じる道は、山を抜ける道と海岸を通る道の2通りありますが、いずれも真鍋島(本浦)港から歩いて40～50分ほどかかります。

すぐ近くには「全国まなべ会」の石碑があります。



み こし もう れつ いきお はし
神輿が猛烈な勢いで走りぬける！



真鍋島の走り神輿は、島の八幡神社に伝わる伝統行事で、3基の神輿が島内を猛烈な勢いで走りぬけます。3基の神輿それぞれに輿守と呼ばれる担ぎ手8人と、まとめ役の警護一人がつかます。神輿をかつぐ前には必ず棒術と獅子舞を行い、危険な箇所を清めてから神輿を出します。もとは秋祭りとして行われていましたが、近年ではゴールデンウィークに行われます。



獅子舞



棒術

74 ま なべ じょう あと 真鍋城跡

市指定史跡

アクセス 真鍋島
(本浦)港から徒歩30分
笠岡市真鍋島



いし がき のこ ま なべすいぐん ゆめ あと
石垣が残る真鍋水軍の夢の跡！



真鍋城跡の石垣

真鍋城跡は、真鍋水軍が造った山城の跡です。真鍋島東部には2か所の山城跡があり、東端の山は「城山」、その南西の山は「城山」と呼ばれています。このうち城山の城跡が史跡に指定されています。標高約84mの山頂には平坦地があり、建物は残っていませんが周囲には露岩を利用した石垣が巡っています。この場所が城の中心だったのでしょうか。一方、城山は島の最高峰で城の原形は残っていませんが、展望台が設置されています。



真鍋城跡の遠景



75

真鍋島の五輪石塔群

市指定重要文化財

開催日

真鍋島

(岩坪)港から徒歩10分

笠岡市真鍋島 岩坪地区



ま なべ すいぐん えいこう つた ほ せきぐん
真鍋水軍の栄光を伝える墓石群！



ま なべ し ま ゴ りん せき どう ぐん
真鍋島の五輪石塔群は、
ま なべ し だ い だ い は か つ た
真鍋氏代々の墓と伝えられて
い ます。 へい あん じ だ い まつ ごろ え
います。平安時代末頃から江
戸 時 代 じ だ い は じ ごろ つく
戸時代初め頃にかけて作られ
たものが、岩坪の墓地の一角
にまとめられています。

げん べい たたか えが べい け もの
源平の戦いを描いた『平家物
がたり 語』や『源平盛衰記』に真鍋

し な まえ へい あん じ だ い まつ ごろ ゆう りょく りよう しゅ わ
氏の名前がみえることから、平安時代末頃には、すでに有力な領主であつたことが分かります。そ
の 後、 ち ゅ う じ だ い は じ ごろ ま なべ し ま ま なべ し ま きょ うえん うみ りよう しゅ か つ やく
の、江戸時代初め頃まで、真鍋氏は真鍋島を拠点に海の領主として活躍しました。

76

真鍋大島のイヌグス

県指定天然記念物

アクセス 無人島のため
要渡船。島内には、管理
された道はありません。

笠岡市真鍋大島



む じん どう の こ げん せい りん せ かい
無人島に残る原生林の世界！



ま なべ おお し ま ま なべ し ま き た ま なべ し ま む じん どう まえ おお し ま いっ げん かぶ み
真鍋大島のイヌグスは、真鍋島の北にある無人島「前大島」にあります。一見2株にも見えま
す が、 ち ゅ う か つ な よこ えだ ひろ き た かぶ み き し ゅ う い
すが、地表下では繋がっているといわれ、横に大きく枝を広げています。北株は幹の周囲6.4m、
みなみ かぶ み き し ゅ う い すい てい じ ゅ れい やく ねん いっ た い げん せい りん な ごり
南株は幹の周囲3.7m、推定樹齢約400年です。この一帯がイヌグスの原生林だったところの名残
を伝える見事な巨樹です。



けんとう し た よ こ だい さい し い せき

遣唐使も立ち寄った？ 古代の祭祀遺跡！



土器が見つかった様子

大飛島洲の南遺跡は、奈良時代から平安時代に海の神に祈りをささげた場所です。発掘調査によって奈良三彩という焼き物や和同開珎などの全国的にも貴重な品々が出土しました。国家が祭祀に関わっていた可能性が高く、遣唐使の航海の無事を祈った場所かもしれないといわれています。この遺跡の近くには「砂洲」と呼ばれる海に細長く伸びた砂浜がありましたが、現在では潮の流れが変わったため見えなくなりつつあります。

砂洲(昭和62年)
(市指定天然記念物)

78 六島の灯台

アクセス 六島前浦港
から徒歩20分

笠岡市六島



とう だい すい せん うつく しま
灯台と水仙が美しい島！



六島は笠岡諸島最南端の島であるとともに、岡山県の最南端にもあたります。六島と、その南約4.6 kmにある香川県庄内半島三崎との間は、瀬戸内海を横断する重要な航路となっています。この航路の安全を守るため、大正11(1922)年に岡山県で初めて灯台が設置されました。現在の灯台は2代目で、昭和59(1984)年に建て替えられたものです。また、島内のあちこちに水仙が群生していて、1～2月にかけて可憐な花を咲かせます。



一面に咲きみだれる水仙

79 大石山

日本遺産構成文化財

アクセス 六島港から
山頂まで徒歩約50分

笠岡市六島



ふね い か せ と うち こう ろ
船が行き交う瀬戸内のメイン航路！



灯台

大石山は、六島の最高峰で、標高185mあります。灯台や登山道からは、瀬戸内海のメイン航路と四国の沿岸が一望でき、大小の船が行き交う「海の道」ならではの景色を味わえます。しま山100選に選ばれています。



日本遺産